

2012年度第1回執行理事会議事録

期 日：2012年6月9日（土） 13:00～17:00

場 所：連合会館 501会議室

出席者：石渡会長 ウォリス副会長 渡部副会長 齋藤常務理事 伊藤 井龍 高木 内藤

中澤 星 保柳 松田 山口 山路 山本

旧執行理事：宮下 小嶋 中井 向山 久田副会長

（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：坂口 西（井龍）平田 旧執行理事：藤林 藤本

*定足数（12，委任状含む）に対し，出席者 15名，委任状 3名，合計18名の出席。

*前回議事録を承認した。

I 審議事項

1. 審議に入る前に新執行理事の役割分担を以下のとおり確認した。

会長 石渡 明

副会長 渡部芳夫（支部長連絡会）

副会長 ウォリス サイモン（名誉会員推薦委員会）

常務 齋藤 眞

副常務 坂口有人

学術研究部会(国際) 井龍康文*

学術研究部会(行事) 星 博幸

広報部会 内藤一樹*

広報部会 松田達生

運営財政部会 西 弘嗣*

運営財政部会 山本高司

編集出版部会(地雑) 山路 敦*

編集出版部会(IA) 伊藤 慎

編集出版部会(企画出版) 山口耕生

社会貢献部会(継続教育)

社会貢献部会(ジオパーク) 高木秀雄*

社会貢献部会(生涯教育) 平田大二

社会貢献部会(連携/事業) 中澤 努

社会貢献部会(連携/事業) 保柳康一(信州大学)

社会貢献部会(地学教育) オブザーバー 中井 均

1. 新旧の引き継ぎ，懸案事項の確認

<懸案事項>

- ・地方支部区の理事の選出方法，
- ・名誉会員の取り扱いを含む会員制度のあり方，
- ・中期ビジョンの作成，

- ・ 執行理事の負担軽減(理事や会員に仕事をお願いする等)
 - ・ 地質学雑誌の将来展望(会員外の投稿の可否(有料, 無料も含めて), 雑誌から企画出版物の作成の可否など, SCI 雑誌になるよう対応を図る, 電子ジャーナル化等)
 - ・ 地質調査研修事業, JNES からの受託事業は社会貢献部会を担当とし, 引き継ぐ.
2. 総会議事録確認, 議事要録(法務局提出用)の作成について
会員向けには詳細な議事録(議事メモに近いもの)を, 外向けには簡略化した議事要録を作成し法務局に提出することとした.
3. 地球環境変遷史に関する研究活動支援体制の整備について
若手の要望にマッチした学際的な専門部会(年会においてはセッション)の典型例として地球環境変遷史を考えた. 地球環境変遷史セクションを組織化することも検討したい, との提案が星理事より出された.
理事会規則に則って, 専門部会, 研究委員会の提案は可能. 専門部会に限らず, 年会のレギュラーセッションの建て方に柔軟性をもたせた方が良く, 専門部会の再編は今後の課題, 専門部会を認識していない会員も多い, などの議論があった.
若手が楽しく参加できる仕掛けも含めて, 地球環境変遷史については井龍理事と山口理事に早急な検討が委ねられた.
4. 津波堆積物のワークショップについて
地質学会では1月ころから研究者同士のワークショップの検討を行ってきた.
堆積学会は, 春に開催したワークショップでは参加希望者を十分受入れられなかったこともあり, 南海トラフとの関係で9月に近畿地方での開催を予定している. これについては地質学会との共同開催でもよいと考えているとのこと.
参加者は専門家だけでなく, 周辺領域の方も含めて対象とし, 津波堆積物関連のアウトリーチ等も含めた共同開催とする.
星行事委員長と伊藤慎理事, 堆積学会担当で相談して日程, 費用等を決める.
5. その他
- 1) Island Arc 関係
伊藤慎編集長より, 編集委員会の報告があり, とくに, Island Arc が学会の公式英文誌であることへの再認識, 誌名の変更, IF の減少及び投稿数の減少, 一定水準の英文確保のため校閲システムの必要性, Editorial Advisory Board の役割の明確化, 投稿規定の改善などについて説明があった.
Island Arc という雑誌名では分野が限られるイメージもあり, 投稿も少く, インパクトファクターが下がり気味である. 編集委員会ならびに W-Brackwell 社の了承も得られているので, 2013 年からのオンライン化に合わせて名称の変更をしたい. 名称は協賛学会員から広く公募して決めたい.
概ねについては, 執行理事会として了承し, 編集委員長が Editorial Advisory Board の承認のもと, EA メンバーを通じて, 協賛学会との調整を早急に行い, 来年に間に合うよう誌名変更の公募を行うこととする.
- 2) 山路編集委員長より, 地質学雑誌編集出版規則一部修正の提案があり(編集出版部会報告 2) 参照) 了承された. 次回の理事会で報告承認とする.

- 3) 地質学会にたいし、国内大会の問題作成が委嘱された。天文は天文学会、気象は気象学会が、それぞれ専門の学会が担当する。問題作成者の人選を、担当理事と地学オリンピック支援委員会に委ねることとした。

II 報告事項

(1) 運営財政部会：総務委員会 (向山・西・山本)

<共催・後援依頼，他団体の募集等>

1. ゼオライト学会より，第 28 回 ゼオライト研究発表会 (11/29-30) の協賛依頼あり，例年通り承諾。
2. 日本第四紀学会 2012 年大会テーマセッション「テフラ・年代測定」(8/20-21，立正大) の共催依頼→承諾
3. 日本地球化学会より，2012 年度年会 (9/11-13，九州大学) の共催依頼→承諾
4. 新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館より企画展示「佐渡の海洋生物展」(7/14～8/31) の後援依頼→承諾
5. 文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学賞受賞候補者の推薦 (〆切 7/17，学会，〆切 7/5) →HP, geo-flash 掲載
6. 埼玉県高等学校理化研究会野外巡検研修会「宮城県仙台市周辺」の後援依頼 (8/9-10) 例年通り承諾。
7. 第 10 回高校生科学技術チャレンジ JSEC2002 の後援依頼 (2012/4/1-2013/3/31) 例年通り承諾。
8. 環境省近畿地方環境事務所より，第 5 回地質のフィールドワーク：熊野のジオサイト潮岬の海岸散歩の開催報告あり

<その他>

- ・山口県美祢市職員採用案内，上級職で地質専門を募集 (6/1-6/22) →HP, geo-flash 掲載
- ・JABEE より，2012 年度総会報告あり。
- ・島原ジオパークユネスコ会議，閉会挨拶状
- ・出版者著作権管理機構から平成 22 年度の複写権使用料の分配 23,000 円通知あり。

<会員>

1. 今月の入会者 (11 名)
正会員 (1 名) 二宮芳樹
正 [院割] 会員 (9 名) 塩飽悠馬，嵩 由美子，山下真司，酒井 亨，後藤和樹，田中清明，角 拓也，北掘健太，有馬達也
正 [学部割] 会員 (1 名) 佐藤勇輝
2. 今月の退会者 (5 名)
正会員 (5 名) : 石原敬久，山下翔大，井上 務，田中郁子，関子田香織
3. 今月の逝去者 なし

4. 5月末日会員数

賛助：26，名誉：73，正会員：3899，正会員：3781，正（院割）会員：112

正（学部割）会員：6，合計 3998（昨年比 -67）

<会計>

- ・ジオルジュ創刊号の収支

支出 71.5 万円（取材費，ライター謝金，印刷費等），収入 29.5（広告料，取材費）

(2) 広報部会：広報委員会（内藤・松田）

- ・ジオルジュの宣伝活動：

連合大会で主に高校生に配布 800 部程度

高等学校，博物館，ジオパーク関係に見本誌を送付（1,151 通）

- ・2号編集準備開始

(3) 学術研究部会：行事委員会（星）

- ・大阪大会については，News 誌 5 月号に予告記事を掲載し，発表・参加申し込みが開始された。地質情報展での会長挨拶，国際ワークショップの講演者を 7/7 の行事委員会までにまとめる，堺市からの補助金獲得のために堺市内のホテルに多くの方に泊まっていたきたい，等の報告と依頼があった。

- ・2013 年仙台大会は，災害科学研究所との共催は確定しているとのこと。

- ・2014 年鹿児島大会について，西日本支部長に実行委員会主要メンバーの決定・報告を依頼した。

(4) 学術研究部会：国際交流委員会（井龍）

- ・韓国地質学会会長 Kang-Min Yu 氏に大阪大会の招待状を送付，出席の返答あり。

(5) 編集出版部会：地質学雑誌編集委員会（山路）

1) 編集状況報告（6月5日現在）。

2012 年度投稿論文 総数 55 編 [総説 4（和文 4），論説 29（和文 26・英文 3），報告 3（和文 3），ノート 5（和文 5）] 口絵 4（和文 2 英文 2）・巡検案内書 10 査読中 31 編

受理済み 37 編（うち通常号 11 特集号 19 案内書 7）

- ・118 巻 5 月号：特集号「東北地方太平洋沖地震：統合的理解に向けて」（世話人：岩森 光ほか）（発行済み）

- ・118 巻 6 月号：通常原稿（総説 1・論説 2・ノート 1・口絵 1）約 65 ページ（校正中）

- ・118 巻 7 月号：特集号「東北地方太平洋沖地震」その 2（予定）

2) 編集出版規則一部修正（C-3 項）（→ 審議事項へ）

現在の投稿査読システムの日付には「ヶ月」という設定はなく「日」という期限が設定してある。大小の月や閏年などを考えると 3 ヶ月より 90 日のほうが明快。修正は以下の通り。

C. 原稿の審査と採否

（現）-----（略）----- 修正を求めた原稿が 3 ヶ月以上たつて編集委員会に返ってきたときは新規投稿としてとりあつかう。

（修正）-----（略）---- 修正を求めた原稿が 90 日以上たつて編集委員会に返ってきたときは新規投稿としてとりあつかう。（現）つぎの理事会で報告承認。

3) 特集号早期公開原稿の非会員著者への対応

特集号掲載論文は、受理後直ちに学会 HP 会員ページで会員に対し PDF を早期公開することになっている。非会員著者は会員ページにアクセスできないので、寄稿していただいた論文のみ、早期公開のタイミングにあわせて、PDF ファイルを著者に無償提供することが了承された。

4)現在、編集委員会で検討中の事項を紹介。

- ・非会員の投稿を認めてはどうか、地質学雑誌に掲載された優れた記載論文、レビュー論文に限った賞の検討。
- ・著者と編集担当者とのメールでの直接やりとりは、必ず編集事務局にも送付することとした。

(6) 編集出版部会：アイランドアーク編集委員会（伊藤）

・編集状況報告

投稿数は増加傾向だが、完全原稿が少なく、予定ページ(825p)の達成は不確定。

(7) 企画出版委員会（山口）

超歴史年表（清川会員）について、修正点等について改めて連絡した。

増刷した城ヶ島の探検マップはよく売れている。三浦半島（蟹江ほか）の原稿は、まだ、修正稿が出ていない状況。

(8) 社会貢献部会（高木・平田・中澤・保柳）

・受託事業、地質調査研修事業は今後、当部会が担当することとなった。

(9) ジオパーク支援委員会（高木）

・2011年度地震火山こどもサマースクールの会計報告があった。また、2012年度（糸魚川ジオパークにて開催）の共催分担金として20万円の請求があった。現在、ジオパーク支援委員会の刷新を検討中。JGNとの連携を考慮した組織作りをし、理事会に諮る。

(10) 地学オリンピック支援委員会（担当理事 久田）

・三重県からの申し入れをうけ、2016年世界大会は日本開催とするため、立候補することになった。国際大会開催には6千万円ほどの経費が必要と予想されるが、文部科学省および三重県からの補助金が期待できる。

・新5カ年計画で、自由研究コンテスト、基礎地学履修者の受け入れ、国際大会参加者のレベルアップ等を考えている。

・地質学会に国内大会の問題作成を委嘱された。（→ 審議事項へ）

(11) 震災復興事業プラン検討WG（高木・向山・藤本・斎藤）

財政担当執行理事交替による委員の入れ替えを検討する。

(12) 連携事業委員会（保柳）

・JNES 柏崎震源掘削調査の技術レビュー（平成23年度受託事業）のその後について渡部副会長よりより、前年度事業ならびに今後の受託事業についての概要報告があり、今年度からは、社会貢献部会が本件の担当を引き継ぐことが要請された。

(13) 支部長連絡会議（渡部）

(14) 地質災害委員会（斎藤）

広報部会と協力して、新潟のトンネル事故のWebサイトを作成した。

(15) 地質技術者教育委員会（小嶋・山本）

第1回委員会が行われた。

中期的な問題として地球科学技術者資格認定制度。

委員長は山本執行理事，地質学会の JABEE 窓口は天野委員。

(16) AERA (4/21 号) の記事について

地質学者を誹謗する文言のある上田誠也氏のコメント記事は，誤植であることを確認したうえで，AERA 編集部指摘し，AERA の Web 版に訂正を掲載させ，そのことを会員に周知した。

2012 年 6 月 25 日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長（代表理事） 石渡 明

署名人 執行理事 斎藤 眞